

Event イベント紹介

第67回企画展

「毒のある生きもの大図鑑」

会期：3月18日(土)～5月28日(日)
観覧料：一般800円 高校・大学生450円

ハチ・ヘビ・クラゲ・フグ・植物・きのこなど、陸や海にすむ毒のある生きものが大集合！「サソリ・タランチュラ・インゲンチャク」など、この機会にしか見られない生態展示も多数登場！！怖いけど見たくなる、毒のある生きものたちの世界にご案内します。



第68回企画展

「ポケモン化石博物館」

会期：7月15日(土)～9月18日(月)
9月23日(土)～12月3日(日)

人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズのふしぎな生き物「ポケモン」の中には、カセキから復元されるポケモンである「カセキポケモン」がいます。この展示は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物学について楽しく学ぶものです。ポケモンの世界の「カセキ博士」と「発掘ピカチュウ」、私たちの世界の博士たちの案内で展示をめぐって、2つの世界の「カセキ」をじっくり見比べてみよう！



© 2023 Pokémon. © 1995-2023 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

第3回友の会/

体験活動

ハーブの香りを 楽しみながら石けんをつくろう

8月
28日

今年度第3回の体験活動「ハーブの香りを楽しみながら石けんをつくろう」を行いました。コロナ禍の体験活動であり、実施や方法について運営委員・博物館担当職員の方々と話し合いを重ね、感染防止対策をしっかりとらううえで実施することができました。

今回の石けんは、ラベンダーを煮て冷ましたハーブ液を使って作りました。最初にラベンダー液を煮出したところで、マスク越しでも実験室がラベンダーの香りにつつまれているのを感じました。その液を石けん素地に混ぜ、アンモナイト型やサメの歯の型に入れて成型をします。実物の化石から作られた型を使い、博物館ならではの石けんができました。お子さん達は、アンモナイトの型のほか粘土のように好きな形を作るなど、思い思いの石けんづくりを楽しんでいたようです。みなさん真剣に石けんづくりに取り組まれ、時間も足りないくらいでした。

マスク生活が続いていますが、自然界の植物は変わらずに成長し

香っています。引き続き感染防止対策をしつつ、季節の植物の香りなど感じながら過ごしていきたいと思います。

(山口 裕子)



編集 後記

レイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」を知っていますか。私はこの本を尊敬している先輩に薦めてもらいました。その方は自然保護の活動をしていて、フィールドに出ると、とても綺麗な瞳で目の前にある自然の感動を教えてくださいました。そして、私はいつまでもここにいたい気持ちになり、いつのまにか自然の事について色々調べるようになりました。この本は「みんなとフィールドへ出るとこんなに素晴らしい！」という事が語られている本だと思いました。現在はコロナの自粛期間があり、皆様と活動出来る機会が減るととてもさみしいですが、また前と同じようにたくさんの方と一緒に自然の中に入り、ともに感動を分かち合い、一緒に学習出来る機会が少しでも早く戻ることを願っております。

(江原 久美子)

友の会入会・継続のお願い

博物館への入館料が1年間無料!

その他の
特典は
次の3つです。

- 1 ミュージアムショップの割引
- 2 友の会行事等への参加
- 3 博物館からの情報配布

年会費

- ① 一般会員……………3,000円
- ② 高・大学生……………2,000円
- ③ 小・中学生……………1,000円
- ④ 家族会員……………5,000円
- ⑤ 賛助会員(1口)………10,000円

◎現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、お知り合いの方に新規加入をおすすめいただければ幸いです。

博物館利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時
(ただし、入館は午後4時30分まで)
休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
その他都合により休館することがあります。
観覧料：一般510円 高校・大学生300円 中学生以下無料
※企画展開催中は、別料金になります。
※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料です。

来館の際は、博物館ホームページよりご予約ください。

友の会通信

～群馬県立自然史博物館友の会～

2023
Vol.
44

第2回友の会/

体験活動

きのこを探して、胞子を見てみよう

6月
26日

総勢18名で、生物研究係伊藤智史先生の案内の下、博物館周辺で「きのこを探して、胞子を見てみよう」が行われました。6月26日は梅雨時期なのに、気温が40℃になるとニュースになるほど暑い日と予想されていました。そんな中では、きのこを採集するには難しいかな～と。当日は気温が30℃を越えましたが予想よりは気温が高くならず体験活動を開催することができました。

前半は、もみじ平公園内できのこ探し。子どもさん達は好奇心旺盛で、数々のきのこを探してくれました。1時間のきのこ探しの最後には、カメシタケ(冬虫夏草)も見つかりました。後半は、実験室へ入り採集したきのこの胞子観察。採集したきのこの中で、クロノボリリュウタケの子嚢に胞子が8つきれいに付いているのが見え感動しました。

最後に、きのこの種類は、菌根菌、腐生菌、寄生菌があり森をきれいにしたり豊かにしたりすると教わりました。菌類は自然界ではとても重要な役割を担っている生きものだと学びました。楽しく勉強になる時間でした。ありがとうございました。(伊丹 清美)



ぐんまのイルカ・クジラ研究最前線

3年ぶりに、友の会の総会を開くことが出来ました。柚木会長をはじめ、藤巻館長のお話などを直接聞いていると、徐々にコロナが落ち着いてきたような、明るい気持ちになりました。

学芸員の木村先生の講演会では、群馬県で発見されている古代の鯨類が、種類も多くかなり貴重なものということが分かりました。そして、木村先生のお話は、要点をうまく説明していただき、専門家ではない私たちも楽しめました。さらに調査の仕方や論文の発表の方法など、子供たちが将来のために知りたい内容を、分かりやすく丁寧に説明してくれました。子どもだけではなく大人も夢中に聞き、すぐにも調査に行きたくなりました。

まだ人数制限もあり、今までのように出席者は多く参加できませんでしたが、講演会が開催出来て良かったです。来年は、コロナ前のように行えるよう願っております。(江原 久美子)



会長挨拶

自然史博物館友の会 会長 柚木 郁

この3年、新型コロナウイルス感染症の流行に、自然史博物館もその影響を受けていると思います。早く元の生活になることを願うばかりです。そんな中、博物館では、工夫をこらしながら県民のニーズに合ったメニューで成果を上げています。友の会としては側面から応援していきます。今後とも友の会の活動の活性化を図りながら愛される博物館になるように活動を進めていきたいと考えています。

今年度の役員は、大塚きぬ江氏が退任されました。在任期間中、友の会の活動にご尽力いただき感謝いたします。新たに、渡部淳司氏(下仁田)が就任しました。今後の活躍に期待します。



私が見つけた自然 募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録し、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館の友の会へ封書またはメール(博物館担当アドレス:ishikawa-n@gmnh.pref.gunma.jp)でお送り下さい。会員同士、すてきな自然の情報交換の場になればと考えています。なお、応募していただいた方にすてきな賞品をプレゼントします。



タンポポ調査をしてみよう



令和4年度、友の会による第1回体験活動は、自然史博物館教育普及職員の石川直紀先生を講師に迎え、「たんぽぽ調査をしてみよう」を行いました。

はじめに、博物館周辺に見られるタンポポを採集し、花の色(白・黄)、総苞外片(外側の緑色の部分)の向き(反り返りの有無)や形(角状突起の有無)などからシロバナタンポポ、カントウタンポポ、シナノタンポポ、セイヨウタンポポなどの同定を行いました。タンポポの種類は、「花の色は白色で花粉の大きさがバラバラ(シロバナタンポポ)、花の色は黄色で総苞外片は上向き(在来種)、花の色は黄色で総苞外片は反り返る(外来種または雑種)」であることが分かりました。また、種の色でセイヨウタンポポは茶褐色、アカミタンポポは赤褐色である

ことを観察を通して実感することができました。

その後、採集したタンポポの花粉を顕微鏡で観察し、花粉の粒の大きさがそろっているか否かで在来種や外来種のタンポポの同定を行いました。「花粉の粒が同じ大きさ(カントウタンポポ、シナノタンポポ)不揃い(シロバナタンポポ、外来種)」であることが分かりました。希に、花粉が見られない種類(ニセカントウタンポポ(仮))があることや在来種と外来種から雑種のタンポポが生まれることを知り、外来種が在来種の多様性に与える影響は大きいのではないかと感じました。

本日の体験活動を通して、タンポポの種類の見分け方が再認識できたので、新たな視点(角状突起の有無)から身近な植物であるタンポポを観察してみたいです。(渡部 淳司)



化石ミニ発掘体験

令和4年10月28日に友の会県民の日イベント「化石ミニ発掘体験」が3年ぶりに行われました。

石膏と土を混ぜ水でこねた岩石の素と共に、サメの歯やアンモナイトなどの化石をシリコンカップに詰めて乾燥させた、体験発掘用の化石入り岩石を100個余りを10月初旬に事前に準備しました。

今回はコロナ禍での初めての開催となり以前の様に制限なく順次受付するという方法を取りやめて、10時から30分間隔で区切り各回12組限定で計6回を事前予約で行いました。

手探りでコロナ対策の開催ルールで行われる為、当初混乱するのではないかと危惧していましたが、参加者の皆さんの理解もありスムーズに進めることができました。

参加者は発掘体験用の岩石の一つを選び、保護メガネや道具一式を受け取りグループ単位でテーブルを使ってスタッフの指導のもとタガネとハンマーで化石を取り出します。

発掘が開始すると参加者の皆さんは夢中で黙々と発掘作業をしていました。参加した子どもたちは化石が顔を出すと歓喜の声をあげ、慎重に取り出すと満面の笑みで家族やスタッフに見せていました。予約で空きのある時間帯は当日受付を行っていたので一度体験した参加者が複数回参加している人もいました。取り出した化石は名前をスタッフと調べてラベルと共にビニール袋に入れて標本の完成です。

懸念された混乱もなく、怪我をした体験者もなく無事にイベントを終了する事ができました。

コロナ禍ではありますが今回の経験を活かして次のイベントに繋げていきたいと思っております。(倉金 秀行)

